

令和 5 年度宇部市地域包括支援
センター事業実施状況
(令和 5 年 1 2 月末時点)

基本指標一覧

〔評価〕

評価	評価基準
○	市の示した指標を全て達成、もしくは達成見込み
△	市の示した指標が、何らかの理由により一部未達成
×	市の示した指標が、全て未達成

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実施

- ・高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。
- ・身近な地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防に着眼した支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。
- ・個人の介護予防や生きがいがづくりに着目した活動を推進する。

基本指標

		指 標		
	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。(健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布)	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。(サロン、認知症カフェ等_大衆アプローチによる介護予防)	③個人の介護予防や生きがいがづくりに着目した活動を推進する。	評価
センター名	各地区6回以上/年	各地区6回以上/年	3人/年	
東部第1	東岐波：40回以上 川上：40回以上	東岐波：30回以上 川上：30回以上	1人	○
東部第2	西岐波：16回 常盤：7回	西岐波：28回 常盤：24回	1人	○
西部第1	西宇部：16回 厚南：9回 その他：9回	西宇部：11回 厚南：18回 認知症カフェ1回	4人	○
西部第2	原：3回 黒石：2回 両地区に該当：26回	原：36回 黒石：41回	6人	○
中部第1	上宇部：10回 小羽山：8回	上宇部：7回 小羽山：8回	1人	○
中部第2	新川：7回 鶉の島：4回 藤山：5回	新川：9回 鶉の島：12回 藤山：5回	3人	○
北部東	厚東：4回 二俣瀬：3回 小野：3回	厚東：13回 二俣瀬：17回 小野：15回	3人	○
北部西	吉部：7回 万倉：15回 船木：20回	吉部：1回 万倉：22回 船木：12回	3人	○
南部第1	恩田：9回 岬：9回 フジグラン：9回	恩田：46回 岬：5回	3人	○
南部第2	見初：9回以上 神原：9回以上 琴芝：9回以上	見初：9回以上 神原：9回以上 琴芝：9回以上	6人	○

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや地域行事等に積極的に参加し、介護予防・認知症予防の周知ができています。 ・個人の介護予防や生きがいがづくりについて、市と共同でアプローチやアセスメント手法等の勉強会を行い実践できています。
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北部圏域では介護予防教室の参加人数が少なかったり、一部介入できていない地域がある。 ・生活支援コーディネーターと連携し、健康づくりや介護予防を取り組める地域資源の開発が必要。 ・地域の保健師等と連携し、地域特性を踏まえた健康課題の把握が必要。
----	--

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

- ・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援等）
- ・認知症サポーターの養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。
- ・地域の特性を鑑み、認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。

基本指標

指 標				
	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	②認知症サポーターの養成により、認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発する（認知症サポーター養成講座）	③チームオレンジの活動を推進する	評価
センター名	4回以上／年	50人以上参加／年	2回／年	
東部第1	6回	35人	2回	○
東部第2	4回	91人	2回	○
西部第1	3回	43名	2回	○
西部第2	9回	180人	5回	○
中部第1	10回	135人	5回	○
中部第2	2回	267人	4回	○
北部東	3回	81人	1回	△
北部西	4回	80人	1回	○
南部第1	17回	8人	11回	○
南部第2	1回	79人	8回	△

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェは新規で4か所開設され、既存カフェも定期的を開催し相談体制が充実してきている。 ・認知症SOS模擬訓練や認知症サポーター養成講座等を積極的に開催し、地域の見守り体制構築に努めている。
------	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に加え、職域や学校等にも積極的にアプローチし、幅広い年齢層に対し共生社会を実現するための正しい知識と理解促進に取り組むことが必要。
----	--

3 地域支援体制の強化

- ・地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い包括ケアシステム」をさらに進め、分野横断的に連携して相談対応ができる体制づくりを行い、ネットワークの拡大強化を図る。
- ・民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行う。
- ・生活支援コーディネーターや住民等と協働で地区単位での支え合い会議を開催し、地域課題の把握や解決に向けた協議を行う。

基本指標

		指 標		評価
センター名	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う（地域の会議・支え合い会議・行事に参加）		
センター名	2回以上／年	各地区2回以上／年		
東部第1	2回	東岐波：2回以上 川上：2回以上		○
東部第2	2回	西岐波：3回 常盤：1回		○
西部第1	3回	厚南：13回 西宇部：14回 共通：8回		○
西部第2	5回	原：5回 黒石：24回		○
中部第1	6回	上宇部：3回 小羽山：2回		○
中部第2	2回	新川：5回 鶉の島：1回 藤山：1回		○
北部東	3回	厚東：4回 二俣瀬：5回 小野：9回		○
北部西	3回	吉部：1回 万倉：5回 船木：9回		○
南部第1	2回	恩田：9回 岬：3回		○
南部第2	2回	見初：4回 琴芝：2回 神原：1回		○

中間評価	地区の支え合い会議への積極的な参加や、民生委員、福祉委員、社会福祉協議会等との協議の場を持つ等、地域の中で連携して相談対応ができる体制づくりが進んでいる。
------	---

課題	地域で抽出された課題に対しての解決方法及び仕組みづくりを進めていく必要がある。
----	---

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

- ・複合化・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的な支援を行う。
- ・地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。

基本指標

	指 標		参 考		評 価
	①アウトリーチを実施した実機関数	②アウトリーチにより把握した実相談件数	総合相談受付件数		
センター名	30機関/年	10件/年	実	のべ	
東部第1	35機関	10件	363	527	○
東部第2	31機関	4件	123	254	△
西部第1	63機関	17件	135	319	○
西部第2	28機関	5件	199	451	△
中部第1	27機関	10件	564	1,894	○
中部第2	25機関	25件	194	419	○
北部東	43機関	14件	137	411	○
北部西	38機関	10件	162	563	○
南部第1	26機関	22件	333	454	○
南部第2	42機関	38件	256	396	○

中間評価	サロン等への参加や民生委員との連携に加え、自治会長等地域関係者との関係づくりを実施し、支援が届いていない人の把握に努められている。積極的なアウトリーチにより、相談件数も上がってきており、窓口の周知啓発にもつながっている。
------	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談アクセスの向上と周知啓発 郵便局やスーパー等でサテライト相談窓口を定期的に開催し、アクセスの向上や周知に努めているものの十分とは言えない。 ・子どもから高齢者まで支援する支援者としてのスキルの向上 引きこもりや依存症、精神障害といった支援に時間を多く割いており、より一層のスキルアップが必要。
----	--

5 社会参加に向けた支援

- ・社会的孤立等の課題を抱える人に対し、地域の社会資源や支援メニューとのコーディネートを行い、社会とのつながりづくりに向けた支援を行う。
- ・課題解決にあたっては、生活支援コーディネーター等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出を促す。

基本指標

	指 標			評価
	①社会参加に向け連携した実機関数	②社会参加につながった実件数	③不足している社会資源を把握した実件数	
センター名	15件/年	5件/年	2件/年	
東部第1	11件	5件	2件	○
東部第2	14件	4件	2件	○
西部第1	17件	3件	2件	△
西部第2	11件	5件	1件	△
中部第1	15件	3件	3件	△
中部第2	9件	8件	1件	○
北部東	23件	6件	3件	○
北部西	16件	5件	1件	○
南部第1	10件	8件	2件	○
南部第2	32件	4件	3件	○

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な支援の結果、サロンへの参加や就労体験等につながってきている。特に社会的孤立からの社会参加には支援に長期間を有するが、着実に社会参加へつなげていく支援を実施されている。 ・不足している地域資源（通いの場の不足、有償ボランティア、受診同行等）を把握することができている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングできる地域資源が少ない。 相談者の特性やニーズに応じた社会参加や体験の場が提供できるよう生活支援コーディネーターへ情報提供していくことが必要。 ・地区により社会資源が少なく、つなぎ先が難しい地区もある。